

テーマ	ADC12材 精密薄肉砂型鑄造品			
開発の狙い	項目	着眼点		効果
	総合的なコストダウン 総合的なリードタイムの短縮 柔軟な設計変更対応	量産材質ADC12は、試作時において、物性値に近いAC2BかAC4Bを使用する。しかしADC12とは異材質であるため、試作時での試験結果が量産品として適用できない可能性がある。		量産立上の間近な時期に、ADC12での再試験をなくし、総合的なコストダウンや開発リードタイムの短縮につなげることができる。
開発進度	1. アイデア段階 (年 月完了)		適用用途例	工業所有権
	2. 試作・実験段階 ()		自動車部品	申請中: 件
3. 開発完了段階 ()		電気通信機器部品	取得済: 件	
4. 製品化完了 (2009年2月供給開始)		医療機器部品	無	
4. 製品化完了 (2009年2月供給開始)		燃料電池部品 など		
製品の概要	現行品		開発品	
	砂型鑄造で量産材質のADC12材を使用すると、本来のダイカスト工法ではないため、溶湯の凝固が遅くなり、その結果、鑄造欠陥が多く発生する。		株式会社イナテックでは、独自の溶湯処理を行うことと、鑄造方案に独自の工夫を加えることにより、鑄造欠陥がほとんどでない砂型鑄造によるADC12材の製作を行うことができる。	
	<p>株式会社イナテックは薄肉のアルミ製品を量産材質のADC12材を使って、砂型鑄造で製作することができます。</p>			
構造				
原理				
特徴			 <p>最小肉厚部 1.5 mm 材質 ADC12</p>	
コスト	100 (AC2B, AC4B)		100 (ADC12)	
問題点	砂型鑄造とダイカストでは工法が異なるため、同じADC12材を使っても、金属組織は同じではありません。組織に依存しない性質（融点、密度、熱膨張係数、ヤング率など）に関わる試験には有効ですが、組織に依存する性質（引張強さ、硬さ、クリープ強さ、電気伝導度など）に関わる試験には有効ではありません。			
問合せ先	株式会社イナテック 営業購買G 三島 TEL:0563-62-6873 E-mail:y-mishima@inatec-corp.com			